

巨樹・巨木シリーズ-8 栃木県の巨樹・巨木

細田木材工業株式会社
顧問 細田 安治

今回はこの巨樹・巨木シリーズに貴重な資料を提供してくれているU氏について述べることから始めたい。彼は熱心で真面目、しかも思い込んだら誰が何と言おうと初志貫徹を貫き、ことを成就させる強烈な意思と実行力の持ち主である。だからこそ巨樹の実態調査を続け、関東から東北へ、そして更に現在では、岐阜、長野、静岡の巨樹を追い求めることが出来るのである。U氏の資料なくば本稿巨樹・巨木シリーズはまったく違ったものになったであろう。U氏に深く感謝申し上げる。道中の安全を祈り、まだ見ぬ巨樹への出会いを楽しみにしている。

ここで残念なニュースを見つけた。9月30日朝日新聞夕刊6面記事に、英国内は勿論、世界中の観光客を魅了し、撮影スポットとなっていたカシモア(セイヨウカシカエデ)が、16歳の少年と60代の男にチェーンソーで伐採されてしまったという。心無い暴挙に木を愛する者として、また「木材や」として悲憤、憤慨している。

さて、今号では栃木県の巨樹・巨木をご紹介します。

◇栃木県の特徴

東京の北に位置し全国的に有名なのは日光東照宮、中禅寺湖、華嚴の滝、足利学校であろう。県庁所在地の宇都宮市は関東中核都市。木材と匠の町鹿沼、小江戸の栃木、石蔵の産地大谷、陶器の町益子を抱える。このように歴史と文化を伝え郷土色豊かで緑あふれ活力のある関東の雄である。なお、栃木県東部茂木(もてぎ)町は現自民党幹事長茂木敏光氏の出身地でもある。

◇栃木県の巨樹・巨木

栃木県を四つの地域、足利市、鹿沼市、日光市、那須郡那珂川町から巨樹7本をご紹介します。7本の選定基準として今回は筆者の独断と偏見で、

1. 神木としての近寄りやすい尊厳と偉容を備えた樹
2. 巨樹にしては珍しい巨樹



栃木県

人口：194.4万（2019年6月1日） 面積：6,408 km²

3. 姿かたちが樹種としてはじめてお目にかかる樹

4. 樹のもつ雰囲気人が人にたえられる樹

・足利市

鏝阿寺の大銀杏

鏝阿寺(ばんなじ)は、源姓足利氏二代目の足利義兼(あしかがよしかね)が、建久7年(1196年)に、開祖した足利一門の氏寺である。

周囲に土塁と堀をめぐらした寺域はほぼ正方形で、約40,000平方メートルある。東京ドームの約1個分と同じ面積ということだ。当時としても驚くべき広大なもので、周囲と境内に植えられた巨樹巨木は外側を守り、内側の境内を見下ろし、森のなかの武家屋敷として、鎌倉時代の面影を伝えている。境内には国宝指定の本堂など貴重な建物が多く建ち並んでいる。筆者は、ここには1世紀に近い歴史を持つ鏝阿寺と、広大な境内から発する靈気があると感じた。この靈気なるものをなんと言い表せばいいのか。言葉では言い表せない。しいていえば「莊嚴」であろうか。大正11年(1922年)には国の史跡に指定されている。

大銀杏は天然記念物、往古より避雷針の役目をもつ天然記念物である。秋は「いちょう」の黄葉が素晴らしく、市民には『大日様』と呼ばれ親しまれていたが、近年樹勢衰え衆庶の愛護を望む。

・鹿沼市

鹿沼市は、有名な皐月園をはじめ季節に合わせて花が咲く、日光東照宮のお膝元として木工技術が売り物の町である。また周辺には名門鹿沼カントリークラブをはじめ、有名コースが目白押しゴルフの名所としても名高い。

背後に控える鬼怒川温泉は、日光市鬼怒川地区の鬼怒川上流域にある温泉。箱根や熱海と並んで「東京の奥座敷」と呼ばれ、ピーク時には年間340万人の宿泊客で賑わった。しかし、バブル崩壊後団体客目当ての大型ホテルは相次いで倒産、足利銀行を破綻させるほどの大形倒産となった。バブル崩壊後平成3年(1991年)から30数年を経た鬼怒川東岸には、「壊すに壊せない」大型ホテルが並ぶ。

松崎星宮神社の杉

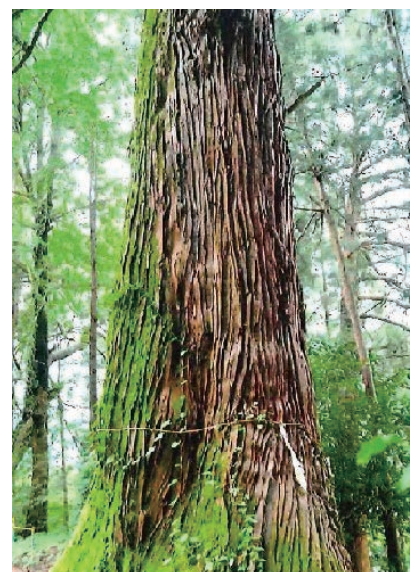
際立って目につく杉は歳を経るものお壮年の活力、エネルギーを



ばんなじ
鏝阿寺の大銀杏
樹齢550年樹周8.5m樹高29m
足利市家富町2220



鏝阿寺の黄葉の銀杏



柏尾松崎星宮神社の杉
樹齢550年樹周8.02m樹高49.0m

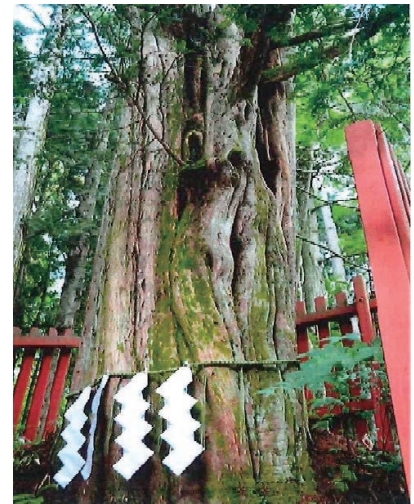
感じさせ、樹肌からは年輪の呼吸が絞り出されるようだ。人に置き替えれば見た通り登山家三浦雄一郎を思い起こさせる。

加蘇山神社の杉

五穀守護、武勇の神を祀っている神社の鳥居の横にあり、市の記念物である。この杉は二股で表情は柔らかく、豪快で頼りになりそうな「おじさん」のような樹だ。



加蘇山神社の杉
樹齢800年 樹周9.02m 樹高46m
鹿沼市久我3440



中宮祠のいちい
樹齢1100年 樹周4.2m 樹高18m
日光市中宮祠二荒神社

◇日光市

日光中宮祠の「いちい」

ふたあらし二荒神社中宮祠とは、男体山山麓、中禅寺湖の北側にある。二荒神社の御神木いちいは、推定樹齢1100年の栃木県の天然記念物である。いちいは、一位と書いて最高を現すことから、悪しきを払い、神職が持つしゃく笏の材料である。笏がいちいでつくられているとは筆者は知らなかった。「木材や」として今更看板を・・・恥ずかしい限りだ。



湯西川の大ねずこ
樹齢600年(推定) 樹高25m、
根廻り7.65m、目通り6.38m
枝張り東西22m 南北21m
日光市湯西川221

湯西川の大ねずこ

ねずこは別名くろべ(黒桧)、ヒノキ科常緑広葉樹。本州中部に自生する日本の特産である

くろべと言われるのは樹皮が黒色を帯びていることからこの名があると言われる。このねずこはバイパス工事のために、樹齢600年であるにもかかわらず100m 移植されたが、樹勢は衰えていない。驚くべきことだ。正に奇跡の樹木である。「新・日本名木百選」に選定されている。

那須郡那珂川町

鷲子山上神社の千年杉

那須郡那珂川町は福島県境を北上、益子、茂木、烏山、那賀川町へと続くところにある。鷲子山上神社は鳥の神様で、日本最大級の「フクロウ像」がある。フクロウには、苦勞を持ち去って貰う願いを込めて「不苦勞」という字が当てられている。古木にしては樹皮の赤



鷲子山の千年杉
樹齢1000年 樹周囲7.07m 樹高
35m 那須郡那珂川町矢又1948

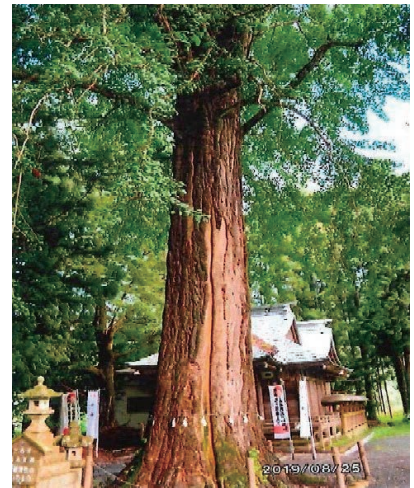
らみが強く、樹皮の赤らみは「頬がほんのり赤い母親」を思わせるようなおおらかさを感じる。なお雄雌同株。

戸隠神社の大銀杏

この銀杏は栃木県の天然記念物で昭和18年(1943年)指定された。本樹の幹は10mほどまで枝がなく(銀杏の直材は初耳だ。貴重な銀杏である)10m上がったところから、四方均等に枝を張り、全体として樹形は楕円形である。殆ど損傷がなく、樹勢極めて旺盛で毎年たくさんの銀杏をつける。県内でも有数の巨木である。樹齢350年今なお子を産み続ける母のような存在であろう。

ちなみに銀杏は、イチョウ科落葉高木で、日本と中国にあるが、日本では全て栽植品だと言われている。(本当かな、しかし栃木県教育委員会・那珂川町教育委員会名の立て看板あり、真実であろう)

続く



戸隠神社の大銀杏
樹齢350年樹高50m
目通り周囲5.8m
枝張り東西22.8m南北24m

◇ドラッカーの名言—9

第7章事業の目標

マネジメントの使命は次の三つ

1. 組織に成果を上げさせる
2. 働く人の向上に責任を持つ
3. 社会に貢献する
 - 使命達成には目標が必要
 - 目標の設定は人を学ばせ成長させる。

◇しからは、「木材や」の使命達成のための目標が必要だ